

病院のお仕事いろいろ

その1 感染予防のお目付役

感染管理認定
看護師

高開登茂子(たかがいともこ)看護師長(写真左)
長尾多美子(ながおたみこ)副看護師長(写真右)

患者さんはもちろん医療スタッフと病院内のすべての人を感染から守るため、医療安全向上に日夜取り組んでいるのが、感染管理対策室で、この分野のお目付役ともいえる存在なのが、感染管理認定看護師の高開看護師長と長尾副看護師長です。主に院内サーベイランス(院内感染の監視や調査)や院内を見回るラウンド、感染防止の為に感染対策マニュアル作成や感染情報の提供、コンサルテーションや教育・指導、そして確認作業を行っています。感染管理認定看護師には、疫学、微生物学、感染症学、消毒と滅菌、関係法規などに関する最新の知識が求められますが、何よりも大切なのは基本の実践。

「新しい耐性菌が広まらないよう抗菌薬の適正使用といった普段のチェックを徹底するなど、予防の観点から取り組むよう努めています。」(高開看護師長)

独自のニュースを毎月発行し、病院全体に安全管理の意識が広がるようにと地道な活動も忘れていません。患者さんを直接ケアする看護とはいささか分野が異なりますが、感染管理に必要な専門知識と技術を習得し、感染管理を主体に実践するスペシャリストとして、病院全体の安全を担っています。

「現場では『これでいいのか?』と常に疑問を持って取り組み、気づきのための専門的な知識を高めていきたいと思っています。」(長尾副看護師長)



感染や伝染を未然に防いで病院内の安全を向上させるという、医療機関にとっていかに大切なことのひとつが、当たり前のこのように実現できるよう、地道な努力を重ねています。

その2 安全ながん薬物療法のために

薬剤部

薬品安全対策室 中村敏己(なかもらとしみ) 室長(写真左)
注射薬補給室 西迫寛隆(にしきこ ひろたか) (写真右)

がん薬物療法は、医療の進歩と共に急速に高度で複雑化しています。特に最近では、次々に新しい作用機序の抗がん剤が登場し、新規レジメン(抗がん剤投与計画)が開発されています。そのなかで、安全で質の高い抗がん剤治療を安心して受けていただくために、がん領域での最新の知識を持った薬剤師(がん専門薬剤師)が必要とされています。

本院は平成22年4月1日からがん診療連携拠点病院の指定を受け徳島県のがん診療の拠点として、毎日、多くの患者さんが来院されています。がん治療は医師、看護師、薬剤師、心理士など、さまざまな医療スタッフが協力して行う集学的医療です。そのなかで、薬剤師はがん薬物療法におけるレジメン(投与計画)管理、無菌調製業務、抗がん剤等の薬剤情報提供を担っています。

がん専門薬剤師の中村敏己室長はこう語ります。

「抗がん剤の調製業務は、処方の確認はもちろん投薬歴、患者さんの症状に合わせたチェックというように、二重、三重に何度もチェックを重ねます。」

「抗がん剤だけでも100種を数えますから、間違いなく安全に届けるためには何よりも念には念を入れることが大切です。」

もう一人のがん専門薬剤師である西迫薬剤師はがん薬物療法の専門知識を生かし、抗がん剤、支持療法剤(制吐剤、白血球を増加させるお薬など)をはじめとする注射薬を払い出す注射薬担当の立場からチェックを行っています。他にも、調剤担当、病棟担当、医薬品情報担当など多くの薬剤師がそれぞれの業務をとおり、患者の皆様がより効果的で安全な治療を受けられるように、安全な医薬品提供と最新の薬学的専門情報をわかりやすく配信することに務めています。

